

## 調査報告 6

## 株式会社 farmson（ファームスン）の生産・流通・輸出戦略

中村学園大学 流通科学部

教授（流通科学研究所 所長） 甲 斐 論

## 1. はじめに

韓国忠清南道論山市にある株式会社 farmson（ファームスン：以下 farmson と略記）は、トマトやイチゴを大量に効率良く生産し、国内の量販店と契約により流通させ、アメリカ、台湾、ロシアに輸出するなど、力強く発展する農業法人である。

低温貯蔵庫、GAP の前処理設備、選果施設を備え、高品質の農産物を差別化したブランドと先進的な流通システムを構築している。その結果、国内外の消費者に安全で環境にやさしい

農産物を供給することが可能になっている。

高品質の輸出品目の開発、生産拡大と独自ブランドの構築、海外での韓国産農産物の商品イメージの高揚などにより、2004年度には韓国国内で初めて農林部（日本の省）指定の共同マーケティング専門組織に指定され、名実ともに農産物産地流通センターの機能を發揮している。

## 2. 会社の概要

会社の概要は、表 1 の通りである。

表 1 Farmson の概況

項目	現 況
名称	(株) farmson 農業会社法人 (旧：(株) 論山農産物輸出物流センター農業法人)
設立年	2000年 1 月30日
職員	56人 (本社：48人、龍仁物流センター：8 人)
施設の状況	敷地面積：5,418m <sup>2</sup> 、建坪：3,128m <sup>2</sup> 、トマト洗浄包装センター：377m <sup>2</sup> 、CA 倉庫：182m <sup>2</sup> 、低温貯蔵庫：891m <sup>2</sup> 、予冷施設：5 台／50m <sup>2</sup> 、選果場：2,204m <sup>2</sup> 、事務室：165m <sup>2</sup> 、高霊いちご・西瓜選果場：2,098m <sup>2</sup> 、晋州いちご・西瓜選果場：942m <sup>2</sup> 、龍仁物流センター：4,710m <sup>2</sup> 、farmson 輸出選果場：2,977m <sup>2</sup>
関連機材	車両 6 台（5 トントラック 1 台、1 トントラック 3 台、その他 2 台）、フォークリフト 54 台、選果機 3 機、西瓜非破壊糖度・重量選別機 1 機、包装機器ほか 12 機



図 1 farmson の 4 つの戦略



差別化 品質保証 手頃価格 安全性

No.1 Agricultural corporation in Korea with international competitive power

国際競争力を持った韓国第1位の農業法人

資料：調査収集資料より作成。

資料：調査収集資料より作成。

### 3. 会社の事業沿革

会社の事業沿革は、表2の通りである。

表2 事業沿革

年	内容
1998	論山梨輸出営農組合法人設立
2000	選果場2棟(600坪)、低温倉庫(230坪)竣工 第37回貿易の日「100万ドル輸出トロフィー」受賞(大統領) 農業法人論山農産物輸出物流センター設立 ○論山梨輸出営農法人、その他輸出農業者が出資 ○資本金:1億3,000万ウォン
2001	農業、農村発展寄与表彰状受賞(農林部長官)
2004	産地流通専門組織選定(農林部)
2005	共同マーケティング組織選定(農林部) 農産物流通教育寄与感謝状(農水産物流通公社社長より授与) 農産物流通業者具現感謝状(農林部長官より授与) 農業者の日 大統領表彰
2006	GAP施設認証獲得 GAP認証機関選定(農林部) 産学官業務協力協約締結(忠南大学校、中央大学校、中部大学校、論山いちご試験場) 自社ERP電算システム構築により、スピード経営体制の確立 技術革新型中小企業(INNO-BIZ)認証獲得
2007	ベンチャー企業確認書獲得 企業敷設研究所開所および認定書獲得 第4回親環境農業大賞、消費・流通部門優秀賞受賞 資本金増資、10月現在、払入資金14億3,000万ウォン 共同マーケティング組織、再選定
2008	(株)farmsonに社名変更 親環境認証機関指定(第46号) 韓国GAP協会の初代協会長(尹テグオン幹事)選出 低温総合選果場(非破壊糖度選別)竣工 第45回貿易の日「300万ウォン輸出トロフィー」受賞(大統領)(11月30日)
2009	忠清南道農産物輸出トロフィー受賞(忠清南道庁)(2月10日) Farmson資本金:33億6,963万ウォン(論山市が9億ウォンを出資)(3月)

資料:調査収集資料より作成。

### 4. 事業分野

取扱品目は、いちご、西瓜、みかん、梨、トマト、りんごなどのうち親環境認証品を主に生産し、流通させている。主要取引先は、国外で

は米国、台湾、日本、ニュージーランドなどであり、韓国国内ではEマート、ニューコアアウトレット、インターパークマート、ホームプラスなどである。

ブランドは、3つから構成されている。輸出用は、下図の左の図柄であり、国内用は親環境農産物であり、下図の中央と右の図柄である。

図2 farmson のブランドマーク



資料：調査収集資料より作成。

## 5. 事業推進の現状

### （1）商品化戦略

GAP（適正農業規範）認証農産物の認証施設3ヶ所（論山市、晋州市、高霊市）を所有しており、ここで差別化された商品を開発し、GAP 認証農産物販売先へ出荷している。親環境認証農産物と GAP 認証と連携した商品化により、消費者の信頼確保および売上高の増加を進めている。

農家の組織化および会員のデータベース構築を進めている。農家の組織化では親環境農産物生産農家団体および GAP 認証生産団体の組織化を、15の市郡の32組織における842人を対象に展開している。

会員のデータベース構築では、韓国農林水産情報センターと電算化専門業者の㈱ユービネット本社と連携し、電算網の構築を進めている。農家情報の管理は ERP（Enterprise Resource Planning）システムと農家管理カード（基本情報、出荷時期、出荷量など）で行っている。

トレーサビリティ関係ホームページの作成は、生産、流通、販売、輸出に関する履歴追跡可能なシステムの運営を行っている。

### （2）専門的な人材の確保および教育

専門的な人材の確保を図るため、公開採用により優秀な人材の確保を行い、3名を採用し、さらに農学修士2名、農学博士1名を採用している。同社には、GAP 認証審査要員を7人擁している。

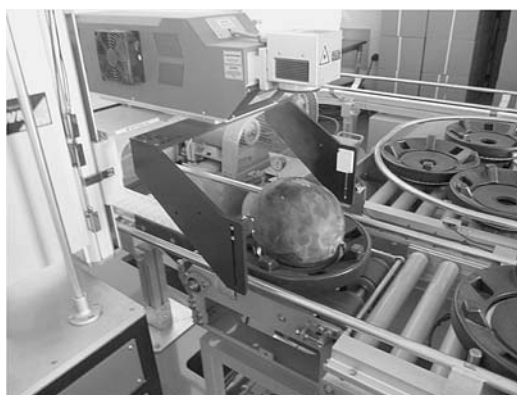
マーケティング管理士を2人（流通公社教育院のマーケティング大学課程履修者）と農産物品質管理者を3人（1次合格者）擁している。

### （3）マーケティングとプロモーション

大型専門売場を開設し、販売促進を行っている。また、E マートとの合同で親環境専門売場を開設し、現在、8店（竹田、安養、屯山、慶山、益山、牙山、太白、冬柏店）で販売促進を行っている。

さらに、トマト専門売場を開設し、E マートトマト専門ショップの3店（竹田、慶山、光州店）で販売促進を行っている。

GAP 認証農産物（梨）を米国に初めて輸出した。輸出量は、600トン（流通公社 GAP 認証1号）であった。



### （4）GAP 認証による高品質農産物認証の拡大

当社は、2006年11月15日にGAP 認証機関に指定された。認証対象はGAP 農業を実践する個人と組織（部会、営農組合法人など）であり、認証対象地域は韓国全土である。GAP 認証農家数と栽培面積は表3の通りである。

さらに同社は2008年6月3日に親環境認証機関に指定された。

表 3 G A P 認証農家数と栽培面積

品目	トマト	いちご	西瓜	梨	ミカン	その他	合計
認証農家数	46	90	54	196	53	243	682
面積 (ha)	28	44	60	190	64	338	724

資料：調査収集資料より作成。

図 3 Farmson は、親環境認証と GAP 認証の指定期間



資料：調査収集資料より作成。

## 6. 主要事業の成果

主要な事業成果を表 4 に、販売実績を図 3 に示す。また、輸出先と輸出金額を図 4 と表 5 に示す。

表 4 事業成果

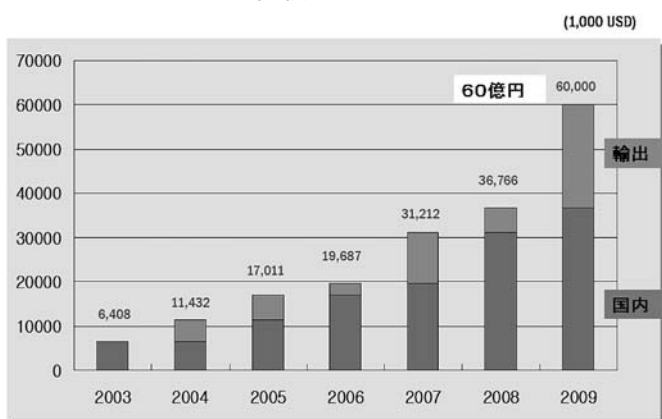
年	内容
1998	○ 米国向け梨輸出団地の指定承認 (USDA・APHIS)
1999	○ 梨 (新高、黄金) を米国に520t、150万ドルを初輸出
2000	○ 米国に梨630t、150万6,000ドルを輸出
2001	○ 米国に梨640t、147万ドルを輸出 ○ 日本にいちご、西瓜、ミニトマトなど53万円を輸出
2002	○ 自社ブランド (日本輸出用小包装方式) で国内流通315億ウォンという初の売上と外国へ245万ドルを輸出
2003	○ E マートに進出し、輸出以外の論山地域のいちご、西瓜、メロン、トマトなどでの年間90億ウォンの販売実績を実現
2004	○ 親環境農産物中心の「ヘッサルマル」ブランドでE マート、ニューコア、2001アウトレット、有機農協会などへ年間170億ウォンという販売実績を実現 ○ ISO 9001「品質経営システム」の認証獲得 (9月8日) ○ 農林部が支援する産地流通専門組織に韓国国内で初めて「共同マーケティング」組織に選定され、運営資金全額を無利子での支援を受ける

2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共同マーケティング組織選定（農林部）</li> <li>○ ISO2001の業者認定獲得など</li> <li>○ 韓国内の流通実績は197億ウォンを販売</li> </ul>
2006	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ GAP 認証機関の指定（第21号、2006年11月15日）</li> <li>○ GAP 管理施設の指定：3ヶ所（論山、高霊、晋州出張所）</li> <li>○ GAP 前管理・洗浄施設の竣工</li> <li>○ 産学官協力体制構築および専門人材の確保</li> <li>○ 産学協力締結（忠南大学校、中部大学校、論山いちご試験場）</li> <li>○ 専門人材の確保：7人（修士2人、博士5人－農科系、自然系、電算系）</li> </ul>
2007	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 産学協力企業付設研究所設置支援事業選定</li> <li>○ 企業付設研究所設置</li> <li>○ 技術革新型中小企業（INNO-BIZ）認証獲得（5月3日）</li> <li>○ ベンチャー企業確認書獲得（8月20日）</li> <li>○ 企業付設研究所認定書獲得（9月21日）</li> <li>○ 国内流通実績：312億ウォンを販売</li> <li>○ 輸出実績：合計502万8,000ドル</li> </ul>
2008	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共同マーケティング組織再選定（2月4日）</li> <li>○ ㈱Farmson に社名変更（5月8日）</li> <li>○ 親環境認証機関指定（第46号）（6月3日）</li> <li>○ 韓国 GAP 協会の初代協会長（尹テグオン）選出（6月27日）</li> <li>○ 低温総合選果場（非破壊糖度選別）竣工（7月15日）</li> <li>○ 農産品輸出研究事業団（農林部）参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ トマト輸出事業団（サンミョン大学校－金ヨンシク教授）</li> <li>✓ 梨輸出事業団（全南大学校－金ウォルス教授）</li> <li>✓ 果菜類輸出事業団（ソウル市立大学校－李ヨンボム教授）</li> <li>✓ 事業期間：2008年8月～2013年8月（5年）</li> </ul> </li> <li>○ 農業技術センター研究開発支援事業（農村振興庁）参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 課題名：輸出用トマト生産および収穫後の品質管理技術開発</li> <li>✓ 事業期間：2008年3月～2010年2月（2年）</li> <li>✓ 参加機関：論山市農業技術センター、扶余トマト試験場、中央大学校、㈱Farmson</li> </ul> </li> <li>○ 施設園芸品質改善事業（ガラス温室4ha、補助36億ウォン、融資36億ウォン、自己負担18億ウォン）確定 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事業費：105億ウォン程度</li> <li>✓ 韓国国内最大規模：4 ha</li> <li>✓ 栽培品目：トマト、パプリカ</li> <li>✓ 竣工予定：2009年7月</li> </ul> </li> <li>○ 農産物消費地・産地における共存協約締結（2008年11月10日） <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 論山市で生産される農産物を論山市の共同ブランドである「イエスミン」ブランドを使用して年間1兆億ウォン規模で新世界 E マートと論山の㈱Farmson が信頼と互惠平等の原則による共存協力協約を締結</li> <li>✓ 品目：米、いちご、トマト、ミニトマト、梨、西瓜、メロン、サンチュ、サツマイモ、丸いも、韓牛、鶏卵、塩辛類など13品目</li> </ul> </li> </ul>

2009	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国内流通実績、367億ウォンを販売</li> <li>○ 論山市園芸ブランド事業の対象に選定される <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ブランド経営体：㈱Farmson</li> <li>✓ 事業期間：2009年～2011年（3年間）</li> <li>✓ 事業費：165億ウォン</li> <li>✓ 品目：いちご、トマト、西瓜、メロン</li> </ul> </li> <li>○ 施設園芸品質改善事業進行状況（2009年2月時点） <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1次工程完了（鉄骨およびガラス被覆作業）</li> <li>✓ サービスビル完工</li> </ul> </li> </ul>
------	---

資料：調査収集資料より作成。

図4 farmsonの販売実績



資料：調査収集資料より作成。

表5 2007年の輸出実績

(単位：ドル)

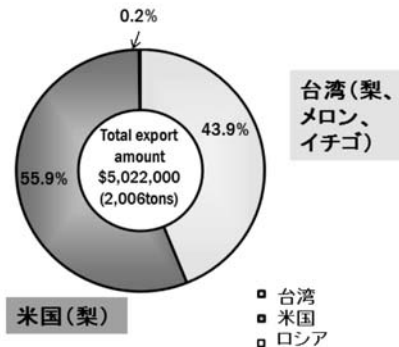
輸出相手	品目	輸出実績
米国	梨	2,811,000
台湾	梨	1,923,000
	メロン・いちご	281,000
ロシア	いちご	13,000

資料：調査収集資料より作成。

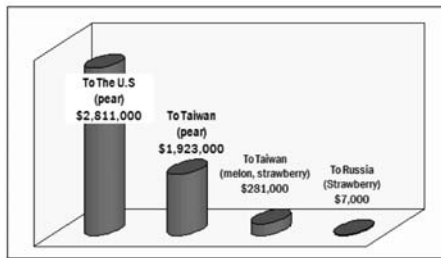




図5 farmson の輸出先と輸出金額



資料：調査収集資料より作成。



<'07. Jul ~ '08. Jan export records>

## 7. むすび～中東と日本への輸出努力～

同社は、国内販売はもちろん、今後は海外輸出に努めている。特に、今後は、中東と日本を新たな輸出先として重視し、輸出努力をしている。これは日本の農業法人にも非常に参考になる。

図6 farmson のロシア向け輸出資料：その1



資料：調査収集資料より作成。

図7 farmson のロシア向け輸出資料：その2



資料：調査収集資料より作成。

図8 farmson のロシア向け輸出資料：その3



資料：調査収集資料より作成。

図9 farmson の新たな輸出先としての中東と日本



資料：調査収集資料より作成。